

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 11 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	社会福祉法人 広島常光福祉会		
事業所名	グループホーム げんき中山		
所在地	広島市東区中山新町3丁目18-6 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104310-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年11月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームげんき中山は、入居者の方々に明るく楽しく健やかに笑顔で毎日を過ごして頂けるよう介護に取り組んでいる。趣味活動が継続できるよう華道・茶道・書道・園芸を日常生活の中に取り入れたり、生花や壁画を飾る事で季節感の感じられる空間作り、職員が媒体となった入居者同士の新たな人間関係作りのサポートを行っている。かかりつけ医と連携をとりながら、麦ごはん等繊維質や乳製品を多く取り入れた食事、1日2回行うレクリエーション等で薬だけに頼らない介護を目指している。日々の変化に素早く対応し、本人・家族の意向をくんだ統一した介護が行えるよう月1回フローア会議を設けている。ご家族を含めたケアプランカンファレンスの実施以外に面会時には日々のご様子を報告し、ご家族とのコミュニケーションも積極的にとるよう努めている。職員の担当業務では個々の特性を活かせるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「常に光る一番のサービス」を提供する。これが当事業所を含め広島常光福祉会の理念である。それにふさわしい介護サービス業の職員としてのプロ意識とケアの質の高さが伺える。法人全体で「希望が持てる・休暇が多い・給与があがる」の=新しい3K=を創造し、介護業界のイメージの一新を図り、優れた人材の確保と育成、魅力ある職場づくりを目指している。法人組織として職員教育の充実により、当事業所でも、利用者の趣味活動の継続支援、地域社会との連携強化と情報交流、利用者・家族に分かりやすいケアプランとカンファレンスの関連書式の考案など、相互のコミュニケーション強化に努めている。時代を捉えた革新的な事業所運営が注目される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事務所内に理念や経営姿勢を掲示している。毎朝朝礼で唱和し、職員の意識づけを行っている。	「地域に役立つ福祉・健康・医療など総合サービスシステムの構築を目指す」の理念と※＝経営姿勢を事業所内に掲示し、毎朝の朝礼で唱和し職員の意識強化を図っている。今年度は「笑顔で感謝」を新しく実践目標とし「常に光る一番のサービスを提供」の実現に結びつけている。	※補足＝経営姿勢の要約 ・既成概念の打破＝創造への意欲と信念を持つ（革新性） ・正義の追及＝すべての行動において、正しいか否か、公平か否かの判断基準（倫理観） ・経営方針＝質の高いサービスを各職員が考える。（行動目標）
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣福祉施設の行事や町内清掃の参加、保育園児との交流や利用者が運営推進会議に参加するなど、地域とのつながりが保てるように取り組んでいる。施設としては毎年7月に夏祭りを開催し、地域の方を招いている。	理念に地域交流の強化を明記しており、訪問当日は、保育園児が事業所の「げんき菜園」に玉ねぎの種まきに来訪し、玄関前に並んで大きな声で挨拶の情景も見られた。毎年、「広島みなと花火大会」の日時に合わせ※＝夏祭りを開催し、近隣住民(100名)の参加者の記録がある。	※補足＝事業所は高台にあり、7月の「広島みなと花火大会」を南方に『遠花火』として、広い裏庭・駐車場から詩情豊かに眺望できる。「音も無し松の梢の遠花火」子規の句が、思い浮かぶとのこと。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験や大学生の実習の受け入れを行い、認知症や施設の理解が深まるよう説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、入居状況や行事報告、避難訓練の実施を行っている。各運営委員で情報交換を行い、テーマとして取り入れ、意見が会議に反映されるように活かしている。	会議は、家族・地域代表・行政等と交え、関連の施設見学などの動きを伴う会議方式を採用している。各会議は、季節・時勢に応じたテーマ（感染症対策・看取り・防災訓練・正しい手洗いの方法等）を決め、出席者から厳しい質疑を交わす実効性のある会議内容である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より地域包括支援センターと入居状況や待機者の情報の共有を図り、協力関係を取っている。	母体法人は、高齢者福祉から児童福祉サービスまでの総合的な取組みがあり、事業所もその総合的取組みから日々の地域包括支援センター、市町担当との協力関係が築かれている。市町との連携事業は、広報資料として新聞折り込みで関係地区に情報発信している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設玄関は安全の為、内側からは開錠しないと開かない仕組みになっているが、散歩や利用者からの訴え時は、職員が付き添い対応している。センサー使用時は、家族の同意を得ている。職員の意識向上の為、外部研修に参加したり、勉強会を実施している。</p>	<p>身体拘束の禁止事項となる具体的行為については、体系的な職員教育が徹底しており、利用者の安全第一に、家族の同意も得て、適切に取り組まれている。玄関の施錠等については、防犯・安全のためとして家族の同意、了解を得て実施している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待を起こさない環境作りとして、外部研修の参加、委員会による啓発などにより、職員の虐待防止の意識を高めて、正しい言葉づかいや態度が取れるように取り組んでいる。傷や皮下出血を発見した際は、報告書を作成しカンファレンスを行ない、その都度対策を立てている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な家族には、制度について、情報を提供している。また、運営推進会議等を利用して、成年後見人制度について弁護士の方に講義をして頂いている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時には、本人と家族へ口頭と書類で説明を行ない、同意を得ている。改定時にもその都度説明を行い、書面にて同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置、普段より家族とコミュニケーションを図りケアプランカンファレンス等で意見を言って頂きやすい関係作りに努めている。苦情があった場合は報告書を作成し早急に解決している。法人で運営するフリーダイヤルの介護相談窓口があり、意見等あった際は連携して迅速に対応している。</p>	<p>事業所の経営状況を数字で公開し家族と一緒に事業所の健全運営を目指している。家族向けのフリーダイヤル「介護相談ホットライン」を設け、意見、要望に迅速に対応している。カンファレンス・ケアプランに家族意見を適切に織り込んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議やフロアー会議、係の会議などを開き、会議を通して各職員の意見を聞き、反映できる場を設けている。また業務内でも意見があれば、検討し利用者の対応を改善を図っている。	当法人は、「福祉は人」のスローガンを掲げ、魅力ある職場づくりと、いまの「働き方改革」にも呼応して、職員の特性を生かす人事考課を推進している。管理者が定期的に職員面談を実施し、積極的に職員の意見・要望をくみ取り、メンタルマネジメントに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回管理者による人事考課の機会を設けている。人事評価の適正や法人内での異動の希望を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力や希望に合った研修が受けられるよう機会を作っている。そこで得た知識を広める場として、月一度の勉強会を行い他職員とも情報の共有が出来る様にしている。また研修で得た知識をもとに業務内容の改善も図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着施設の合同会議の開催、法人内の他施設行事の参加、人事異動による情報交換等で施設内で活かせるものは取り入れている。外部研修や法人の親睦会では職員同士が交流できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安なく、落ち着いた生活が送れるように、信頼関係を築くと共に、希望・要望を訴えやすい環境作りに努めている。利用者同士が、コミュニケーションをとりやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居契約時や入居1ヶ月以内のカンファレンス時に、家族の要望や質問に答えられる場を設けて、家族の不安に随時対応出来るよう、努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>初回面接と契約時に本人・家族と話し合い、入居前に利用していたところがあれば、情報提供を参考にしながら必要な支援を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>炊事、洗濯、掃除などを利用者と共にやる事で、提供ではなく暮らしを共にする者同士の関係を築いている。職員も利用者の趣味や趣向に参加し、利用者への理解を深めている。感謝を伝え年長者への敬う気持ちをあらわし、利用者との信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会だけではなく利用者本人と定期的に関わりを持ってもらう為に、行事や会議等への参加を促している。また、体調の変化や特変があれば、家族に連絡し情報共有を行っている。居室内の私物管理、緊急時の病院受診等協力してもらいながら、利用者と共に支えている関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出行事等を計画し、利用者が社会との関係を保てるようにしている。家族や友人の訪問や外出などの機会をもってもらい、できるだけ家族や友人との関係が今まで通りに保てるように努めている。</p>	<p>家族・友人の協力を得て、馴染みの場所や人の関係継続を進めている。家族の同行による以前通っていた喫茶店に再訪の事例、茶道の先生をしていた人、書道を得意とする人、お花の先生、裁縫の得意な人など、昔を懐かしみながら教えあう、新しい馴染みの関係を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや行事の参加、関係をつくと共に、日々の生活を送る中で、馴染みの仲間と楽しく穏やかに、会話や仲間作りができるように援助している。利用者同士が、トラブル無く、良い関係を築けるように見守りや援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約時、事前に退居前後の事も説明をしている。退居まで本人・家族が安心できるように相談があれば乗っている。退居後本人・家族が納得できる退居先に情報を提供する等、最後まで安心してサービスが受けられるようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の得意、不得意を把握し、本人の希望や意向に沿った援助を行っている。困難な場合は、家族の希望を聞いたり、本人の生活歴を参考にし、本人が今思っているであろう事を尊重している。	本人および家族の希望・意向を介護計画書と連動させて詳細に聴取・把握して個別に支援している。併せて、生活歴も考慮し、日々の生活の中に同化させている。ある利用者は、保育園児の菜園活動の来訪に備え、農業の経験を活かして畑の畝を耕した情景も観察された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接で自宅や利用施設に行き、アセスメントを行っている。入居時には生活歴アンケート調査、嗜好調査を行っている。また、基本情報や本人の生活歴を参考にし、本人からの希望も聞きながら、援助を行い、家族からも希望を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタル測定を行い健康状態をチェックしている。ケース記録、フローア伝達ノート、フロアー会議を通じて、職員間の情報を共有できるようにしている。日々の体調、心身の変化を常に観察し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望にそえるよう、本人・家族とのコミュニケーションを図る事に努めている。月に1回モニタリングを行い、現状に合わないプランは随時見直しを行っている。ケアプラン、家族カンファレンスでは、できるだけ多くの職員と家族が参加できる時間帯に行い、現状に即した介護計画作成を行っている。</p>	<p>制度に準拠して、利用者・家族にも分かりやすい介護計画書・関連書式の整備に工夫を凝らしている。利用者ごとに職員担当制を採り、ケアマネジャー・管理者を交え家族とのコミュニケーション強化を図っている。利用者の「これから…」という前向きな意欲を引き出している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアプラン実施を記録に残すことで、各職員間の情報を共有し、体調等の変化があれば素早く対応できるよう実施に活かしている。また、ケアについて見直し等あればフロア会議で検討しケアの向上を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>食事や間食の希望、歩行時の付き添い方、居室での過ごし方、家族対応についての細かな希望等、本人・家族の希望に近付けられるよう、可能限りの支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会活動の年間行事を把握し、地域の方と交流ができるよう、できるだけ参加している。ショッピングモール等を利用しながら楽しく暮らせるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望や必要な医療があれば、各希望病院に連絡を取り、医療が受けられるようにしている。必要に応じて医師と相談し、往診への切り替えや、入院時の受け入れ体制を整えている。他科受診があれば、受診日・送迎の調整や薬の管理を行っている。</p>	<p>6ヵ所の協力医療機関の受診支援の体制整備のもとに、従来のかかりつけ医への受診を優先している。家族同行が困難な場合は、職員が柔軟に送迎に応じている。定期的な訪問看護・歯科の来診もあり、法人組織として医療受診を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週1回かかりつけ病院の看護師の訪問で近況を報告している。他科受診などで処方された薬があれば訪問看護でも報告し、細目に情報の共有を図っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には適した治療が受けられる様、詳細な情報提供を務めている。入院期間が長ければ訪問し、利用者や家族、病院の関係者に情報提供をしてもらい施設に戻られた際の環境整備等を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居契約時に重度化や終末期について書面で説明し、同意を得て方針を決めている。カンファレンス時には、再度説明と意思の確認を行い、かかりつけ医と方針の共有を行っている。	入居契約時に重度化の対処について「重要事項説明書」で相互確認し、同意のもとに支援方針を共有している。これまで看取りの事例は少ないが、家族と関係職員を交え、かかりつけ医の指導のもと、法人内施設および専門医療機関等での最適な終末期ケアを選択している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	事故発生時や急変時のマニュアルをもとに対応している。定期的に勉強会を開き、対応の確認と改善を図り、全ての職員が対応できるように努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議では、所轄の消防隊と町内会の方を交えて訓練を行っている。訓練後は、意見交換を行い、地域の協力が得られるようにしている。災害時に備え保存食を保管している。	運営推進会議で災害対策を重要なテーマとして討議し、所轄の消防隊と町内会の協力を得て一緒に訓練を実施している。併せて、食料の備蓄など法人として災害対策支援の組織を確立している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居時、個人情報について本人・家族に説明し同意を得ている。本人の人格や誇りを傷つけない声掛けや羞恥心に配慮した対応を行っている。	「利用者の尊厳…」をキーワードに、事業所の広報資料にも「人生の大先輩である利用者のお世話をさせていただく、崇高な職業である」と明記し、介護職の地位向上と共に、高齢者への尊敬の念を高める言葉かけ、接遇を展開している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、本人の思いや希望に添う介護を行っている。コミュニケーションをとって、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースに合わせて、食事や入浴など、ゆっくりと楽しめる配慮をしている。また、本人がその日どう過ごしたいか、会話などから希望を汲みとり、本人の体調やペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人がその日に着たい服が着れるよう、選んでもらっている。外出行事の際は家族と服を選ばれる方もいる。月に1回の訪問理美容サービスは、本人と家族の希望に沿ったメニューで利用してもらっている。髭剃りや化粧水、乳液、リップクリーム等本人の希望するものは家族に依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を行い、利用者の希望に応じた食事ができるように努めている。形態は一人一人に合わせて提供している。食材は宅配を利用し、3食職員で手作りし、準備や片付けを利用者と一緒に行っている。	視覚で楽しみ、舌で味わう…、食膳の配色にも工夫している。食材は法人の食材専門業者の宅配を活用し主に職員が調理し、利用者の嚥下機能に応じた調理法に配慮している。季節に応じて「げんき菜園」で採れた野菜が、食膳に色を添えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>その人の病気や状態、体調を職員が把握し、食事量や栄養バランスを考えて提供している。自力摂取が難しい方は介助し、食事量や水分量を確保している。食事量や水分量は、記録にしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、磨き残しがある場合は、職員が介助する事で清潔保持に努めている。月2回の訪問歯科で、治療や口腔ケアを行ってもらっている。週1回、義歯の消毒を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者の排泄パターンに合わせた、排泄表の作成やパット類の検討を行っている。誘導やパット類の確認は最低限にし、本人の羞恥心に配慮を行っている。</p>	<p>利用者の生活の質を左右する、最も大切な排泄ケアとして取り組み、本人の羞恥心に配慮しながら、可能な限り自力でトイレに行けるよう「排泄の自立」に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日乳製品の提供や体操を行い、便秘予防を行っている。便秘時にはかかりつけ医に相談し、下剤の調整を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ほぼ毎日入浴できる環境を作り、利用者の希望を汲みながら、心身共にリラックスしてもらっている。入浴中は脱衣所に鍵を掛け、羞恥心に配慮している。入浴時には、身体に異常がないか確認を行い、異常があればかかりつけ医に相談し対応している。</p>	<p>利用者の要望に応じて、心身ともにリラックスできる入浴支援を行っている。利用者の体調、気分に応じて無理強いせず、足湯、清拭など、個々の実情、要望に応じた自立支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中家事・体操・散歩・趣味活 動等を行い、夜間睡眠が取れる ように支援している。傾眠時や 疲れのみられる時は臥床を促 し、休息が取れるようにして いる。その際には、長時間の 休息ではなく、1～2時間など 時間を区切り、夜間に影響し ないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	医師の指示のもと、内服薬や外 用薬等の服用を行っている。副 作用等変化があれば医師に相 談し、薬の調整を行っている。 処方された定期薬は、担当職 員がチェックし、薬の把握に 努めている。変更があれば、 職員全体に伝達を行っている。 処方箋は個人のケースに綴じ、 緊急時や受診時に情報の漏れ がないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	入居時には、家族に生活歴アン ケートを記入してもらい本人 からの情報だけではわからない 所を補っている。趣味である 生け花・茶道・書道・園芸等 が継続して行えるよう日常生 活の中に取り入れている。食 器拭きや洗濯干し、畳み等の 得意な家事を活かせる機会を 設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	外気浴や周辺の散歩等を職員 と一緒にしている。外出行事 や日帰り旅行、地域交流等利 用者の希望に添えるよう努 めている。家族が不安なく外 出や外泊ができるよう、家族 へ日頃の様子を面会時に伝 えている。	街中では得られない事業所周 辺の広い庭が、日々の外気浴 ・散歩に最適な自然環境にあ る。利用者の体力に応じて、 外出行事・日帰り旅行のほか 、日々の買い物に、近隣の コンビニ・スーパーなどへ職 員同行で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支 援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。	入居時家族の同意を得て、小 口預金通帳で診療代の支払い を行っている。面会が難しい 場合には、日用品の支払いも 行っている。自分でお金の管 理をしたい方は、少額の現金 を家族同意の上で所持し てもらい、自動販売機やス ーパーで買い物をしてもら っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話の要望があれば、やりとりが円滑に行える様に支援している。年始には年賀状を家族へ送る事で、家族との関わりを持てるよう支援している。携帯電話を所持している方は、自由に家族とやり取りをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには、トイレの名札などをつけ、利用者に分かりやすくしている。リビングでは好きな音楽やテレビ番組を流している。リビングに日常生活の写真、入居者が作成した壁画、習字を飾り、居心地のいい環境を作っている。畑で育てた花は生け花にして飾り、とれた野菜は調理し食卓に出す事で季節感を取り入れている。	平屋造りの利点を活かした広い共用空間は、朝夕の自然採光に工夫され「明るく・楽しく・健やかに」のキャッチコピーを具体化している。リビングでは、利用者が集って、各特技を生かした※＝季節の壁画を作成する活動的な情景が見られた。	※補足＝季節の壁画・(12か月) 毎月のテーマを決めて、レクリエーションの一環として、貼り絵を作成し共用空間の壁に掲示している。金閣寺・等身大の相撲取り・安芸の宮島の大鳥居など、大人感覚の芸術作品として、その場に調和している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、気の合った利用者同士で、食事ができるよう座席の組み合わせに配慮している。リビングにはテレビ、ソファがあり、くつろげる空間を作っている。テラスにはプランターが置いてあり、季節折々の花が咲いていて、自由に出入り可能で思い思いに過ごせる環境にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具等の持ち込みは自由になっている。写真や花等を飾ったり、ポットを置いて、好きなコーヒーなどを自由に飲んで頂いたり、住みやすい環境にしている。生活しやすいようにベット、家具等を設置している。	居室は、自宅にいた時と同じ生活様式に留意し、馴染みの家具、調度品を持ち込み、居室環境に同化させている。各居室入口には、植物の美しい写真と名前が標記されリビング(共用空間)とは明確に区分され、自分らしさとプライバシーを守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できる事を生かし、役割を持って生活するようにしている。本人・家族の同意のもと、居室には名前を表記している。トイレ等分かりやすく表示し、自立した生活が送れる様にしている。食事席は混乱する事がなく、テーブル、椅子に名前を貼り、できるだけ席の移動がないよう配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 平成29年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外気浴を日常活動の中により取り入れ施設外での活動を増やす。	入居者・家族の要望を取り入れ外出行事を計画していく。	家族・入居者の要望をより取り入れ施設外での外気浴・外出行事等行っていく計画を立てる。	6ヶ月
2	23	本人・家族の思いや意向をより組み込んでいく。	一人一人の状況をより把握し希望や意向に祖沿った支援をしていく。	カンファ時や面会時に家族にもより今後の意向を確認ししていく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。